



あおもり 町連だより

第210号

平成30年7月発行

青森市町会連合会

TEL 017(734)2584
FAX 017(734)2587

30年度
定時総会

地域力の掘り起こしを推進

原案通り全議案承認、会長に加川氏を再選

青森市町会連合会は5月30日（水）、午後1時からホテル青森で平成30年度定時総会を開き、町会長235人が出席、全議案を原案通り承認し、役員改選で会長に加川幸男氏（白旗野）を再選しました。

総会は松本勝義常任理事が司会を務め、八戸弘副会長が開会を宣言。物故者に黙祷をささげた後、加川幸男会長があいさつに立ち、各町会長の日ごろのコミュニティ活動等への尽力に対して敬意を表しながら、「少子高齢化、人口減少などによって、地域を支える力が年々弱くなってきており、地域力の強化が喫緊の課題となっている。このため地域の組織が連携して、健康で明るく安心な暮らしができるよう、地域力の掘り起こしを推進してまいりたい」と活動方針を述べました。

次いで、長年町会運営に貢献し退任した町会長26人、優良会員160人、功労団体2団体を表彰（3面に掲載）、受賞者を代表して市川和行氏（西田沢）が謝辞を述べました。



町会長235人が出席して開かれた30年度定時総会

続いて、来賓の小野寺晃彦市長、館山善也市議会文教経済常任委員会委員長、中野渡晃青森警察署地域官があいさつ、各町会長のまちづくりや福祉向上への尽力をたたえる祝辞を述べ、同じく来賓として出席した浪岡町内会連合会の伊藤芳男会長が紹介されました。

この後、齊藤裕一郎常任理事を議長に選出し、議事に入りました。

議事はまず、議案の29年度事業報告について各部長が報告、29年度一般会計収支決算などについて福井正樹事務局長が報告しました。これについて出席者から①福祉部会からの事業報告に、災害時要援護者支援運動を市と連携して進めたとあったが、市民生委員児童委員協議会との連携、協力が大きかったことがぬけていないか②昨年11月市町連事務所がアウガに移転したことに伴う共益費等について説明してほしいと質問が

（2面へ続く）

紙面紹介

- | | |
|----|--|
| 2面 | 30年度定時総会続き
30年度事業計画 |
| 3面 | 退任町会長、優良町会員、功労団体を表彰
30年度事業計画（2面からの続き） |
| 4面 | 29年度市政懇談会 |
| 5面 | 29年度市政懇談会（4面からの続き） |
| 6面 | クリーンボックスに小中学生の絵を貼る
（西奥野町会） |



29年度事業報告をする各部部长

あり、担当部部长、福井事務局長が説明した後、原案通り承認しました。

引き続き、30年度事業計画、一般会計収支予算案などについて審議を行い、各部部长、福井事務局長が説明、出席者から①アパート入居者の町会加入促進について市町連の取り組みを示してほしい②総務部会の事業計画で各町会の運営実態を調べていきたいとしているが、具体的に説明してほしいと質問あり、会長、担当部部长、が説明した後、原案通り承認しました。

この後、任期満了に伴う役員の変更が行われ、会長に加川氏を再選、次の方々を役員に選出しま

した。

□副会長＝山崎光治（浅虫）野呂龍一（久須志町）八戸弘（東片岡）大科武雄（北後潟）齊藤裕一郎（横山町）

□常任理事＝松本勝義（鴨泊）天内勝年（沖館第四）加藤恒雄（浜田ニュータウン）高森泰彦（清水）神保修平（堤橋）

□監事＝榎引哲夫（小柳）黒瀧敏博（上三上町）柴田義則（大野）

その他について、出席者から「市町連の活動が停滞していないか。各町会をサポートする活動にもっと経費をかけて、活発に取り組んでほしい」と要望がありました。



新しく選ばれた役員

組織一丸となって活動

30年度事業計画

基本方針

青森市町会連合会の目的である「各町会の連絡協調と住民の福祉増進を図り、豊かで住みよいまちづくり」のため、活動の推進に努めて参ります。

近年は、少子高齢化社会の進展と人口減少などにより、地域を支えるチカラが年々脆弱化してきており、地域力の強化は喫緊の課題となっております。

このため地域の組織がお互いに連携し合い、健康で明るく安心な暮らしができるよう地域力の掘り起こしを推進して参りたいと考えております。

重点目標

青森市町会連合会は「重点目標」の骨子を、町会連合会、地域協議会、地区連合町会、町会が組織一丸となった活動を原点とし、「ふれ合い・助け合い・支え合い」の地域みんなのチカラで、地域住民みんなが明るく笑顔で過ごせる町会づくり

を推進することとします。

- (1) みんなで考え、みんなで参加し、みんなの力でまちづくりを進める
- (2) 地域への誇りと愛着心を持ち、明るく笑顔で暮らせるまちづくりを進める
- (3) お年寄りなどが安心して暮らせるまちづくりを進める
- (4) 安全で快適な暮らしができるまちづくりを進める
- (5) 健康づくりの盛んなまちづくりを進める
- (6) 青少年が健やかに育つまちづくりを進める
- (7) 文化の香りがするまちづくりを進める

各部推進事業

総務部会

- ・総会、役員会、部会等各種会議の開催
- ・各部会との連絡調整、行政及び各機関との連絡調整、広報「町連だより」の発刊
- ・市政懇談会、新任町会長研修会、理事研修会、町会長研修会等の開催
- ・安全で安心な、住んでよかった街づくりの促進
- ・地域課題への積極的対応と地域づくり事業の推進

退任した町会長26人を表彰

優良町会員160人、功労2団体も

青森市町会連合会は30年度定時総会で、表彰規定に基づき、退任した町会長26人と、優良町会員160人、功労団体2団体を表彰しました。(敬称略、カッコ内は町会名、勤続年数)

□ 20年以上勤続し退任

鹿内忠雄(平新田、23) 高畑豊太郎(浪館第二、37) 野坂登(西金沢、26)

□ 5年以上20年未満勤続し退任

和田弘志(浪打、6) 皆川政昭(滝沢、14) 日下昭夫(佃北、12) 大滝正長(はまなす、15) 阿部尚三(北蛭沢、12) 片岡光昭(ベイトウン沖館、8) 佐藤孝希(南平岡、12) 蝦名栄三郎(新城下町、12) 倉内一長(岡部、16) 神召一(上野、8) 今村謙(やはぎ、5) 仲谷正(筒井、16) 下山晃弘(桜川、8) 本多信雄(南八ッ橋、6) 成田



謝辞を述べる市川和行氏



長年町会長を務めて退任、表彰された方々

寛司(若木、8) 館田紀代文(油川下町、17) 柿崎健(油川あけぼの、8) 疋田司(内眞部、17) 市川和行(西田沢、14) 神山昌則(南後潟、12) 二階隆光(本町中央、7) 故・川嶋廣道(駅前新町、13) 福原大壽(安方、14)

□ 優良町会員

工藤留美子(松森団地)ほか159人

□ 功労団体

三内丸山町会三内丸山縄文会
平岡町会平岡婦人会

地域振興部会

- ・コミュニティ活動の活性化促進
- ・街路灯の設置及び修繕、道路舗装・側溝整備の要望活動
- ・雪処理事業の充実促進の要望活動
- ・災害に強い地域づくり事業の促進の要望活動

交通・防犯部会

- ・高齢者と子供を守る運動の推進
- ・交通安全関係者会議への参画及び協力
- ・交通安全協会事業と連携した活動の推進
- ・防犯運動団体等との連携した活動の推進

環境部会

- ・ごみの減量化と資源再使用の促進
- ・地域花いっぱい街づくりで、環境美化運動への協力
- ・地球温暖化対策協議会への参加、協力

- ・廃棄物等の不法投棄による通報協力
- ・野生動物への餌やり等を防止し、鳥インフルエンザの防止に協力

福祉部会

- ・高齢者を励ます活動
- ・地域ネットワーク活動推進事業の促進
- ・町会等が行う福祉事業の支援並びに地域づくり事業の推進
- ・災害時要援護者支援運動
- ・市民生委員・児童委員協議会との意見交換会

女性部会

- ・検診受診勧奨、広報活動
- ・交通安全運動推進・啓発
- ・町会女性役員(リーダー)研修会の開催
- ・町内女性の集いの開催

＝29年度市政懇談会＝

望ましい公共交通は

市町連は1月17日（水）、市福祉増進センター（しあわせプラザ）で平成29年度市政懇談会を開き、市営バス利用促進など5つの地域協議会が提起した問題について、市と意見交換しました。

懇談会には市町連から加川幸男会長はじめ41



市政懇談会であいさつする小野寺市長

人、市から小野寺晃彦市長のほか理事者7人が出席、加川会長、小野寺市長のあいさつの後、大櫛寛之都市整備部長が、市からの情報提供として、平成30年度から10年間の計画期間とする青森市地域公共交通網形成計画の素案について説明しました。

■コンパクト+ネットワーク

大櫛部長は、計画の策定目的は、コンパクトなまちづくりと地域公共交通の連携によって「コンパクト・プラス・ネットワーク」のまちづくりを進める上で、地域にとって望ましい公共交通の姿を明らかにするためとし、まず公共交通をめぐる現況として①市の人口が12年後の2030年には24万人に減少、少子高齢化の進展で0～14歳の年少人口割合が9%、65歳以上の高齢人口割合が36%になる見込みである②通勤・通学時の交通手段として、年々公共交通、徒歩、バスの割合が減り、自家用車の割合が増えている③鉄道は新幹線のほか、JR奥羽本線・津軽線、青い森鉄道線が運行しているが、利用者へのアンケートではJRは運行本数、青い森鉄道は運賃、運行本数への評価が低くなっている④青森駅の乗車人数はJRが減少傾向にあるものの、青い森鉄道は微増傾向にある⑤バスは、青森市営バス、青森市民バス、浪岡地区コミュニティバス、弘南バス、JR

バス東北、十和田観光電鉄、下北交通が運行しているが、利用者が減少傾向にある—ことを紹介しました。そして、計画の基本方向について①多様な交通方法を結びつけ、将来にわたって持続可能な公共交通ネットワークを形成する②利便性や質の向上を図り、利用しやすい公共交通サービスを提供する③地区拠点へのアクセスや観光振興など街づくりと連携した取り組みを進める—とし、そのための取組内容について①鉄道線とバス路線を「基幹交通軸」と位置づけ、利便性、利用のしやすさ、わかりやすいネットワークを形成する②青森駅西口駅前広場・自由通路を整備、鉄道線に合わせたバスダイヤの設定、バス乗り場、タクシー乗り場、情報案内等の見直しを行う③利用者ニーズに対応したバス運行、冬期の通勤・通学便など季節ごとのニーズに対応した実験運行を実施する④郊外部の人口の少ない地域、道路が狭くバス運行ができない地域などについて、地域特性を考え、地域主体のコミュニティ交通や乗合タクシーを活用する—と説明しました。また、わかりやすい、利用しやすいサービス提供のため①バス待合所の整備・改修、低床バスの導入などサービスを向上させる②ICT（情報通信技術）を活用した運行情報の提供など環境を整備する③鉄道線の効果的活用、青森駅周辺へのアクセス向上を図り、観光振興や商店街と連携した取り組みを実施する④交通結節機能・二次交通を強化する。案内情報の多言語表記など訪日外国人旅行者の受け入れ環境を強化する⑤公共交通の利用促進のため、市民、企業、学校へ働きかけをする—と話しました。

■新青森駅へ行きやすい運行を

続いて、加川会長を座長に意見交換に移り、5つの地域協議会から問題提起しました。

東部地域協議会の木村真一会長は、市営バスの利用促進について、①高齢者の利用を考えたバス停の改善②新青森駅へ行きやすい運行と便数増③GPS（位置情報計測システム）を利用し、運行状況が分かるシステムの導入—を提言しました。これに対して、市長は「バス停の改善について、2億円の予算を設け、5か年計画で風、雨、雪対策を施したボックス型のバス待合所設置などバス停の整備・改善を進めている」と説明。多田弘仁交通部長が「新青森駅へは1日56便が運行して

いるが、1日の利用者平均が90人と大変少ない現状にある。需要者の掘り起こしを行い、利用者の拡大、満足度を上げていきたい。運転士を募集



市営バスの利用促進を提言する
東部地域協議会の木村会長

しても志願者が少なくなっている問題もある。GPSの有効性は認識しているが、費用面から現状では難しい」と回答しました。

西部地域協議会から佐々木重光理事が、側溝の整備と用水路の管理状況について、①地区によって側溝整備の進捗状況に違いがある。整備は、どのように決めているのか②西部の地域では、土地が低かったり、側溝に土砂が詰まったり、1時間に40ミリ程度の降雨で冠水するところがある。管理はどのようになっているか—と質問。市長が「側溝整備には今年度1億2千万円を投じている。市道は1,200キロメートルあり、地域から要望をいただいて、①市道であること②用地が民間の権利になっていないこと③緊急度—の3つの条件を基準に決めている」と説明しました。八戸認都市整備部理事は「西部地区の岡部町会では下水道、排水路の整備を進めていて、ここ3年間は大きな問題が発生していない。タウンミーティングで要望があった箇所は整備した。問題箇所については情報の提供をお願いしたい」と回答しました。

■操車場跡地付近に新駅設置を

南部地域協議会の八戸弘会長は、青森操車場跡地の利活用について、①アリーナを建設する話が出てきた。平成25年に市が策定した利用計画素案では土地利用の方向性を、防災機能を備えた公園、新駅を含む交通結節点、公共的な施設の建設用地—に利用するとしている。利用計画案はどうなっているか②地区には2万5千世帯あり、高校2校、大学3校がある。青い森鉄道の利用促進のために新駅を設置してほしい③やがて市民病院の建て替えが必要になる。市が中心になって中核病院を作してほしい—と質問、要望をしました。ア

リーナ建設の話について市長は「12月に市民から、短命市返上のため市民の健康に役立ててほしいと20億円の寄付があり、寄付者の意向も踏まえ、学校での食育、体育施設の整備を考えた。2025年に青森国体が開かれるが、1977年のあすなる国体を前に建てられたカクヒロスタジアム（市民体育館）が老朽化しており、それに替わるものも課題になっている。利用計画案の方向性にも添う」と話しました。新駅については、大櫛部長が「県有地もあるので、県との話し合いの中で市として要望していく。バス、タクシーのターミナルについても検討していく」と回答、中核病院建設の問題については、木村文人市民病院事務局長が「赤字が続いている市民病院を自立した経営状態にするため現在有識者会議で議論しており、操車場跡地への建て替えは難しい」と回答しました。

■市職員の対応は“上から目線”

北部地域協議会の市川和行理事は行政と町会の連携について「経験上、市職員の市民への対応に“上から目線”を感じる。対等な立場で情報交換が出来るようにしてほしい。要望に対しては、適切に、部局の担当者を紹介してほしい」と要望しました。これに対し市長は「現在市役所駅前庁舎に、フロアマネージャーを5人配置し、不案内な人への案内などを行なっている。困り事の相談にも乗るようにしている。気付いたことはどんどん指摘してほしい」と答えました。

中部地域協議会の種市勲会長は、タウンミーティングの開催と意義について「①ミーティングで出された要望等を、聞くだけで終わりにしないように②今後も継続するのか③出された意見は発言者だけに回答しているのか④同じ意見が重複しても仕方がないので、進め方について市町連と打ち合わせしてほしい」と質問、要望。市長が「1年で40カ所を一回りし、気付いたことがある。今後も継続するが、各タウンミーティングでいただいた意見等に対して、状況をお返ししてからはじめたい。また、開催に当たっては市町連と相談して進めたい」と話しました。福井正樹市民政策部長が、タウンミーティングで出された問題、要望について、公園の草刈りを市が対応した例、災害時に避難所を開設する際の町会長との連携方法など、これまで実現した事例を紹介しました。

ごみ

西奥野町会の取り組み

クリーンボックスに
小中学生の絵を貼る

環境美化、マナー向上へ

西奥野町会（成田弘視町会長）は地元の小中学生が描いた絵やごみ出しルールなどを大きくプリントし、ごみ集積所（クリーンボックス）に貼り付けています。



プリントした絵を貼る西奥野町会のクリーンボックス

510世帯からなる同町会には、ごみ集積所が11カ所あり、そのうち6カ所へ4月までに貼り付けました。町会が環境美化、ごみ出しマナーの向上などを目的に浦町小学校と浦町中学校へ協力を依頼、取り組みに共感した両校が、浦町小は児童が夏休みに描いた絵の中から、浦町中は美術部の生徒の作品を提供しました。町会はこれらをクリーンボックスの扉のサイズに合わせてプリント、雨や雪に耐えられるように薄い樹脂膜で覆う加工をほどこしました。また、クリーンボックスの下部には①指定袋に入れて出してください②収集日の朝8時30分までに出してくださいーと書いた大きなシールも貼りました。費用は町会の予算、市の助成金等を充てました。

同町会は、45組に分けて、1週間単位で当番を決め、ごみ集積所の管理、ごみ回収後の清掃等を行っていますが、近年住民の高齢化などで、当番になっても事情があって出来ない人が増え、当番制度の維持もだんだん難しくなってきました。また①他町会の人が回収日と違うごみをおいていく②灯油ストーブなど粗大ごみを持ち込む一などの問題にも悩んでおり、クリーンボックスに貼り付けた絵やルールが、町の美化、ごみ出しマナーの向上に役立てばと期待しています。

同町会の町会費は月額200円ですが、日ごろ町

会が行っている、住民への連絡、コミュニティ活性化、交通事故防止、防犯、環境整備・美化、防災減災などの活動を続けて行くためには資金が不十分なことから、少しでも資金の足しにしたいと、住民に協力を訴え、今年度から資源ごみ集団回収を始めました。すでに、町会の老人クラブ「ことぶき会」が集団回収を行っていましたが、町会の集団回収には「ことぶき会」も協力しました。

同町会の集団回収は、①古紙類②びん類③空き缶④ペットボトルーを、町会が委託した業者が、あらかじめ定めた日時に、毎戸回収します。実施に当たり、住民へ趣旨や内容を周知するため4月7日（土）、奥野団地集会所で、市清掃管理課の職員を講師に「ごみ減量化・資源化に向けた取り組み」の講習会を開き、住民37人が参加。①家の前のどこにおくのか②雨、風が強い日、冬場はどうしたらよいかーなどの質問が出されました。

町連だより新編集委員が決まる

市町連各部会の構成員が変わったことに伴い、各部会選出の町連だより編集委員が次の通り決まりました。

天内勝年（総務）加藤恒雄（地域振興）松本勝義（交通・防犯）神保修平（環境）高森泰彦（福祉）穴水由利子（女性）

人事 青森市町会連合会の事務局長・三上金藏氏が3月末退任、後任に福井正樹氏が就任しました。

訂正 1月に発行した209号の2カ所に誤りがありました。お詫びして訂正いたします。

① 3ページ左、下から14行目の「堤町町会」は、正しくは「堤橋町会」です。

② 6ページ、青森市町会連合会事務所の電話番号は、正しくは734-2584です。

● 編集後記 ●

最近「2025年問題」という言葉をよく聞きます。今から7年後、いわゆる団塊世代が75歳以上になる2025年には、病気を抱える高齢者が増えて社会保障費が膨張、医療、介護が立ち行かなくなる恐れがあるという。出生数は減り続け、平均寿命は延びる（本来喜ばしいことだが）。70歳になる私には身につまされる現実です。せいぜい元気で、働けるうちは働きたいと思います。（千）